

# 北辰

TOKYO



岐阜県立多治見北高等学校同窓会  
東京支部会報 第29号  
2015年10月4日

## 地元、東京、関西の連携で多北を盛り上げましょう

多治見北高等学校同窓会東京支部 会長 原田 英明 (12 回生)

年々気候変動が激しくなり、洪水や地震、火山の噴火など相次ぎ、なんだか落ち着かない日々ですが、季節は確実に秋色を増してきています。皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

ところで、第26回目となる今年が多治見北高同窓会東京支部総会・懇親会は11月28日(土)に、昨年と同じ女子栄養大学駒込キャンパスで開催いたします。

今年のフォーラムは「アニメから現代アートへ、現代アートからアニメーションへ。」と題して、水野健一郎氏(26回生)にアニメと現代アートについて語っていただきます。女子栄養大学直営レストラン松栴軒から提供される料理も、昨年大好評でした。ぜひ、昨年に続いて本年も多くの皆様のご参加をお待ちしています。

私たち東京同窓会(多北高同窓会東京支部)は1990年に設立され、会員数約千人で年に一度の総会・懇親会の開催(11月)と会報の発行を行っています。また、年に数回のゴルフコンペを開催しています。さらに、フェイスブック上で「多治見北高同窓会」(全国)のグループを作って情報交換の場としています。グループ人数は現在約280人で、東京支部の会員も多数参加しています。

携帯電話やインターネットの普及で地元と東京の距離感は縮まりましたが、同窓会を通じた繋がり、絆は心のよりどころの一つになりうるのではないかと思います。異世代、異業種交流会としての役割も大きくなってきています。首都圏在住の若い世代の皆さん、そしてあらゆる世代の皆さん、ぜひ東京の同窓会につながっ

てみてください。

ところで、私事ではありますが、私この夏、恵那市岩村町の実家へ転居しました。任期をあと二年残してのことで、多北東京同窓会の皆さまには大変ご迷惑をおかけすることになりました。就任したのが2011年11月で震災の年でしたが、私のような者が会長職を務めるのもよいかも引受け、昨年の今頃には故郷へ引っ越しイメージは全く持っていませんでした。ただ、毎月実家とその周辺のメンテナンスに通っているうちに、だんだん東京に居るより田舎に居るほうが自分が心地よいと感じるようになってきていて、冬が厳しいから嫌だと言っていた妻がこの春「田舎暮らしもいいかも」と言い始めたことで、一気に引越まで進みました。

この間多北同窓会も、母校と本部同窓会、東京支部、関西支部の結びつきや連携がとて強くなってきています。それが母校の後輩たちにも大きな励みになっているのではないのでしょうか。今後そうした繋がり輪の一つとして私もお役に立てればと願っております。どうぞ皆さま、11月28日の総会・懇親会でお会いしましょう。



昨年11月15日の東京支部懇親会の様子



# 本部同窓会、年々盛り上がってます

多治見北高等学校同窓会 会長 伊藤 恒一 (12 回生)

東京支部の皆様こんにちは、現在、同窓会会長の職をお預かりしております 12 回生伊藤恒一(つねかず)です。昨年 11 月 3 日臨時総会にて同窓会会長に選出させて頂きました。

尾関恵一元会長(2 回生)、酒井忠造前会長(5 回生)のお伴をして昭和女子大学での総会の頃より参加させて頂いており、東京支部の皆様とは多少の面識を頂いておりますが、今回初めて東京支部の会報誌に寄稿させて頂きます、会長就任のご挨拶の代りに自己紹介させて頂きます。

昭和 28 年 4 月多治見市生まれ、愛児幼稚園(ガキ大将)、精華小学校(野球小僧)、陶都中学(野球部)、多治見北高(ハンドボール部、助っ人として相撲部県大会、陸上部駅伝にも出場させて頂きました)。福岡歯科大学(2 期生)に入学し競技ス



キー部(雪は滅多に降りませんが)に所属しました。新設校で 1 学年が 100 名、クラブ活動、学園祭、体育祭等は 1、2 年生だけの手作りでした。大学側も講師、助教授、教授全て他大学からの寄せ集めで、教える側も実は試行錯誤であったと思います。この様な沢山の苦労を経験し自分達で大学を育てたと云う思いが強く大学同窓会の役員も務めさせて頂いております。夏は毎年長崎県壱岐の島で合宿、秋には阿蘇山にてテント合宿等、九州を満喫でした。6 年間良く遊びましたが、多北魂、持ち前の体力と自慢(?)の暗記力のお陰で、無事 1 回で歯科医師国家試験をパスしました。

名古屋市内 2 カ所の歯科医院での研修を経て、昭和 57 年中津川市内で歯科診療所を開設し、多治見市の自宅からの通勤が現在で 34 年目になります。

自己紹介が長くなりましたが、やっと本題に入らせて頂きます。まずは東京支部の皆様方には平素より本部同窓会活動に対しご理解、ご協力、ご支援を頂き心より御礼申し上げます。実を申せば、東京支部の同窓会活動が我々本部同窓会の目標のひとつでも有ります。8 年程前私が本部役員になった頃、当時の尾関会長から東京支部の総会の

様に本部もより広範囲に活動したいとお話が有りました。当時の主な企画はゴルフコンペだけかと記憶しています。

それを受け次の酒井会長時代には、虎溪山永保寺にての境内清掃、座禅、管主様の講話等を開催し、参加者が 1 年目は 50 名程でしたが、4 年目には 200 名を超え、永保寺の大広間に入りきれない様になりました。この企画は同窓会会員だけではなく、他県、他市在住の会員が友人を多治見に同伴し、永保寺を観る、市内の喫茶店でコーヒーを飲む、帰りには茶碗のひとつでも買って頂く。結果として「地域活性化支援活動」を目指しており、同窓会活動が会員だけに留まらず多治見、東濃を知らない方を対象に、古川多治見市長(11 回生)の唱えられている、「多治見を一日観光の街に」の援護射撃でも有ります。

昨年は 11 月 3 日、多治見文化会館にて多治見北高吹奏楽部 33 名と栗田麻利子(38 回生)クインテットの無料コンサートを開催しました。当時、事業委員長であった私に酒井会長から「同窓会員を対象とした吹奏楽部(4 年間程同窓会から楽器等を寄付していました)のコンサートを北高の体育館での開催で企画して下さい」と指示がありました。音響、会場の設営、駐車場等を考えると北高で開催するのは無理と判断し、多治見市文化会館に行き、たまたま 11 月 3 日(高校からこの日を指定されていました)に大ホールが空いていたので会場を取りあえず押えました。(後にわかったのですが、11 月 3 日は多治見祭りで市内パレードとバッティングをする日なので空いていたのでした)

多治見、土岐、瑞浪にポスターを一万枚、整理券を三千枚配布し(文化会館の担当の方から 1,300 人定員に対し 3,000 枚の整理券を配布したら当日どの様な混乱が起こるか分かりませんと言われてました)幸い学年幹事の皆様方のご協力のお陰で当日、1,300 人の会場がほぼ満員になりました。ちなみに同年開催の井上陽水 1,300 席満席、森山良子 1,100 席、多北吹奏楽部 1,300 席満席です。場内整理、受付等も 10 回生の先輩方、本部役員が中心になり、テキパキとそれぞれの役目を果たして頂きました。会場では栗田麻利子クインテットと吹奏楽部がそれぞれ演奏し、最後の 1 曲は当日のメイン、ジョイントコンサートになりました。北高生 33 名の演奏するハナミズキを聴きながら、1 回生、2 回生の先輩方が涙を流していらっ



しゃいました。一瞬ではありますが自分達の高校時代に気持ち  
が戻り、感動の温かい涙であったと思います。

また、今年の7月29日、30日には17名の北高校生を引率  
し、加藤校長、2名の先生、同窓会役員と合わせ35名、仙  
台在住の13回生水野輝彦君にもお手伝い頂き、1泊2日の東  
日本大震災復興支援ツアーに行つて来ました。同窓会員は自己  
負担で行つて頂きましたが、高校生17名、先生3名分を合わ  
せた費用約120万円は全額同窓会で負担をしたいと考えており  
ます。そこで大事なお願いです。毎年会員の皆様をお願いして

いる3,000円の協力金を是非忘れず振り込んで下さいますよう  
、お願い申し上げます。(現在、18,000人の会員の中で協力金を  
支払つて頂いているのは2%の方だけです) ツアーの詳細につ  
きましては、水野輝彦君の寄稿文(6頁)をご参照ください。

11月28日東京支部総会には五島副会長、加藤事業委員長  
共々、出席させて頂きます。会場にて是非声を掛けて下さい。  
最後になりましたが、東京支部の益々のご発展と会員の皆様方  
のご健勝を心より祈念させて頂きます。

## 関西支部総会、最多参加で大盛況

多治見北高等学校同窓会関西支部 会長 水野 尚之 (13回生)



東京支部の皆様、関西支部の活動報告をさせていただきます  
。第24回を数える平成27年度の関西支部総会・懇親会は、  
6月7日(日)午前11時から、大阪の「KKRホテル大阪」で  
開かれました。今年度は出席者が何と58人を超えました。好  
天に恵まれ、大阪城を臨む素晴らしい会場での会は、近來に  
ない盛り上がりとなりました。これもひとえに、先輩方、事務  
局の土本美智子さん(13回生)、会計担当の平木えり子さん(18  
回生)をはじめとする会員の皆様が、積極的に声掛けをし、  
準備をして下さったおかげと感謝しております。関西支部の会  
員は現在240名で、東京支部に比べてかなり小じんまりとして  
います。ただ、昼食をはさんで行なわれる支部総会と懇親会は、  
関西ならではの明るさとノリで、いつも大変賑やかです。



総会には、遠路にもかかわらず同窓会本部から伊藤恒一会  
長、酒井忠造前会長(監査)、そして東京支部からは原田英明  
会長のご出席を賜りました。また、加藤知之多治見北高校長、  
成瀬和康同校教諭、そして松田嘉久同校元教諭という恩師の  
ご臨席を賜り、様々な世代の同窓会員がそれぞれの北高の思い  
出を共有することができました。加藤知之校長からは、現在の  
多治見北高のご指導の様子や生徒たちの活躍などをご説明い  
ただき、同窓会として大変参考になりました。

今年度の総会においても、記念講演が行なわれました。今  
回は曹洞宗南昌寺住職の本庄広司さん(11回生)が、「大阪  
に来て44年、今、故郷(ふるさと)を思う」と題してお話しく  
だされました。司会を伊藤肇さん(18回生)が務めてくださり、

感動あり笑いありのご講演でした。

懇親会では、13回生の土本正明  
さんが司会・進行をして下さいまし  
た。原田東京支部会長にご挨拶をいただいた他、今回は二つ  
のお祝いをさせていただきました。その一つは、古川雅典多治  
見市長がめでたく三選を果たされたことのお祝いです。古川市  
長(11回生)は、ご多忙の中、数年ぶりに関西支部の総会・  
懇親会にもご出席くださり、力強く明確に今後の市政の方針を  
語って下さいました。また、吉田美喜夫先生(8回生)の立  
命館総長・立命館大学学長ご就任についても、関西支部とし  
てお祝いをさせていただきました。そして前原金一さん(2回生)  
の乾杯のご発声の後には、関西支部のいつもの和やかな会食、  
酒宴となりました。今回は、伊藤肇さん、坂本浩一さん、  
奥田幸子さん、川本淑子さん、平木えり子さんという18  
回生の「中堅」がそろって出席されたことに加えて、大  
竹正道さん、小木曾哲さん、早川和秀さん、宮島照久さん、  
富田悦子さんという26回生の「若手」のご参加があり、  
大いに盛り上がりました。最後に、大村厚子さん(1回生)  
が懐かしい思い出を交えたお話で、会を閉めて下さいまし  
た。

こうして懇親会が盛会のうちに終わった後、齊藤誠  
先生ご寄贈の同窓会旗とともに、記念撮影を行ないました。  
前田平八郎さん(2回生)が撮影された美しい写真をご覧く  
ださい。天候にも恵まれ、今回も、楽しさと幸福感に満ちた総会  
・懇親会となりました



# 先輩方の大きなサポートに感謝！！

多治見北高等学校校長 加藤 知之

多治見北高等学校同窓会東京支部同窓生の皆様には、ますますご活躍のことと心からお慶び申し上げます。日頃は本校の教育に対して格別なご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。多治見北高等学校が58年目を迎える本年度は、新入生が6クラス、240名となりましたが、全校20クラス、800名の生徒たちは、「自主、自律、自学」の校訓のもと、文武両道の気風を引き継ぎ、それぞれの志をめざして、学習、部活動、生徒会活動等、日々の学校生活に全力で取り組んでおります。

昨年度、「同窓生による講演会」は、東京支部からご紹介いただきました、日本IBMで活躍の阿部仁美様(23回生)を講師としてお招きし実施いたしました。講演後、生徒たちは「多治見北の先輩で、世界中で活躍している、こんな素敵な人がいることをとても誇らしく思いました。」「同じ女性として将来どのように働いていくのかを具体的にイメージすることができました。」「人生は一つのプロジェクトがたくさん



つながってできたプログラムであって、目の前のプロジェクトに真剣に取り組まないといけないと思いました。」等と感想を書いており、将来の夢を育むとともに現在の学校生活を見直す貴重な機会となりました。

今年度、夏休みに行いましたPTA主催「大学見学会」におきましても、多



くの同窓生の皆様に、お世話になりました。東京大学、早稲田大学の見学、卒業生との懇談会を一泊二日の日程で行いましたが、感想を聞くと、「自分の目で大学を見ることができたことは大きな刺激となった。」「在京の卒業生の皆さんとの懇談会は、特に有益でした。」と答えています。懇談会では、大学生だけでなく東京周辺で働いている皆さんにも参加していただき、受験勉強、東京での学生生活、大学での研究、さらには就職等々についての話をさせていただきました。同じ高校に通っていたからこそ分かる生活の悩みや対処法は、参加者にとって大変参考になったようです。

二つの行事は、教職員だけでは行えない貴重な取組であり、進路

意識の確立、職業観の醸成等を目的とした現在の高校生にとって特に大切なキャリア教育の柱と考えております。ご協力いただいた阿部仁美様をはじめ多くの同窓生の皆様には、この紙面をおかりしましてあらためてお礼申し上げます。

さて、生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、グローバル化・多極化の荒波に挟まれた厳しい時代を迎え、対応するための改革が論議されています。高等学校教育に関しますと、文部科学省では、「高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革」が審議され、県教育委員会におきましても、さらなる少子化の状況を踏まえ、「魅力ある高校づくり」について審議が進められています。これらを受け、多治見北高等学校の教育活動についても見直しを進めています。改善に当たり、まずは、校訓「自主・自律・自学」の精神を「礎」として、人間性においても学力面においても、生徒一人ひとりを伸ばし、諸先輩方の後継者として社会に貢献できる人材を育てることが、変わらぬ本校の使命であることを再確認し、「修学旅行における課題研究」「ジョブシャドウ体験」「多北サイエンスプロジェクト」等できることから取組を始めています。今後は、学校内だけでなく、協力いただいた二つの取組のように、同窓生の皆様をはじめ保護者、地域の方々とのかかわりを大切にして、地域、大学他の教育機関等との連携をさらに深めた教育活動をすすめていきたいと考えております。

多治見北高等学校のさらなる発展をめざして、教職員一同努力してまいります。学校外との連携を深める取組の中で、同窓生の皆様のご協力をお願いする機会も多くなるかと思えます。繰り返しになりますが、今後も、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

## 故郷へ「元気」を送ってください！

多治見市長 古川 雅典 (11回生)

はじめに

多治見市は、平成27年8月1日に市制施行75周年、平成28年1月23日に多治見市と笠原町が、合併して10周年を迎えます。

合併の際にお約束した新市建設計画もいよいよ最終年となり、新火葬場、多治見市モザイクタイルミュージアム、星ヶ台保育園の建設も順調に進んでおります。



これからも「まるごと元気・多治見」の実現を目指して皆様のご意見をしっかりと伺いながら住みよいまちづくりを進めてまいります。

コンパクトシティ

多治見市では、多治見駅北土地区画整理事業と併せて駅南地区の再開発事業に取り組みます。まちなかに賑わいを創出し、コンパクトシティ化を目指します。

多治見駅周辺には、駅近マンションが次々と建設されています。一方、郊外の住宅団地では、高齢化が進み空き家が増えるという問題も発生しています。



多治見駅北庁舎

駅近マンションには、高齢者に入居していただき、30、40代の若い世代に郊外の団地に住んでいただくよう住宅リ

フォーム費用の補助などを検討しています。人口減少に歯止めをかけ、多治見市が消滅しないよう様々な施策を行っていきます。

コンパクトシティ化と併せて重要なのが、郊外に住む市民の交通手段の確保です。多治見市内の路線バスの上限運賃を平日昼間200円とし、郊外に住む市民の駅周辺への“足”を確保します。

### 人財育成最優先

多治見市は、人財育成を最優先に岐阜県No.1の教育環境を目指します。

多治見市内の小学生を対象に土曜学習を開始しました。「わがまち・たじみ大好き講座」で多治見市の素晴らしいところを見て、聞いて、感じていただき、将来も多治見市に帰ってきてもらえることを期待しています。

中学校では、30人程度学級を全学年で実現できるよう準備を進め、きめ細かなケアを行うことで教育環境を充実させていきます。

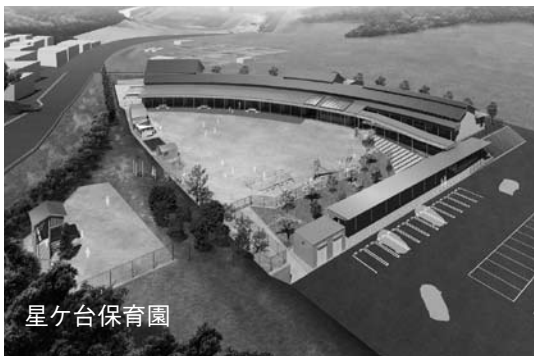
本年1月に開庁した多治見市役所駅北庁舎の3階は、次世代育成フロアと呼んでいます。

赤ちゃんができたお母さんを担当する保健センター、幼稚園、保育園を担当する子ども支援課、小中学校を担当する教育委員会を同じフロアに配置し、職員間の情報共有を密にすることで切れ目のないケアが可能となります。

### 地産地消

多治見市では、公共工事の地産地消を進めています。工事の発注先はもちろん建設の際の材料も地元産にこだわっています。

現在、建設中の星ヶ台保育園には、地元の滝呂町で作られるランプシェードを採用します。滝呂地区の窯元が得意とする薄手の磁器



星ヶ台保育園

をランプのカバーに採用することで柔らかい光の電燈となります。

地元の技術を積極的に見せ

ることで園児たちに多治見をもっと好きになってもらいます。

公共施設を建設する際には、地元産のタイルをふんだんに使っています。多治見駅北庁舎には外装からトイレ、階段室までいたるところにモザイクタイルを使用しています。

また、旧笠原庁舎を取り壊し、現在建設中の多治見市モザイクタイルミュージアムには、モザイクタイルの歴史から商談のスペースまで地元笠原町の思いが詰まっています。



多治見市モザイクタイルミュージアム

### 人口減少対策

多治見市では、今後8年間の市の政策を決める第7次総合計画を現在策定中です。第7次総合計画の1丁目1番地は、人口減少対策です。

平成26年5月に日本創生会議が発表した消滅可能性都市896市町村の1つに多治見市も含まれました。

現在、行政と女性経営者を含む市内の企業代表者とともに女性活躍会議を開催しています。行政の率先行動だけでなく市内の企業にも、その流れを広めていくことで多治見市の人口減少対策を進めています。

安心して子育てをしながら、働くことができる環境をつくるのが、



多治見駅南再開発

少子化対策にとって一番大切です。出産のため一度リタイヤした女性の就業を支援する仕組みを確立するとともに育児と仕事の両立を支援する事業所を増やすよう具体的な提言をいただくよていです。

### 災害対策

多治見市では、平成23年に大きな水害を経験しました。その教訓を生かし、「浸水対策実行計画」を策定し、国が進める100ミリ安心プランに登録されました。

現在、土岐川のポンプ場増設工事をはじめ、脇之島川の付け替えなど急ピッチで工事が進んでいます。

また、こうした災害を経験したことを教訓として、被害発生時期が想定される災害に対して、「いつ」・「誰が」・「何を」しておくかを、時間軸に沿って、事前に整理した行動計画表である浸水事前防災行動計画「タイムライン」を作成しています。

災害に強い安心・安全なまちづくりのため、これからも取り組みを進めます。

世界の中心でご活躍の皆様には、今後とも、なお一層故郷多治見に元気を送ってくださいますよう、ご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

# 「津波てんでんこ」・・・ 東北震災復興支援ツアー記

水野 輝彦 (13 回生)

7月29日・30日に行われた「東北震災復興ツアー」は、本部同窓会が伊藤会長を中心に企画実施された初めての同窓会行事でした。東日本大震災から4年4ヶ月がたち、日々の生活の中ではとすると忘れがちな大災害を復興半ばの現地に行って、自分の目で見て考え、それを周りにしっかりと伝えていくという大変有意義な企画でした。参加メンバーは、在校生17名、加藤校長先生および教員2名、本部同窓会伊藤会長はじめ有志15名、そして東北在住(仙台)で



陸前高田市の奇跡の一本松で集合写真

東京支部所属の私が伊藤会長からお話を頂き特別に参加させていただきました。

2日間は、東北には珍しいほどの猛暑の中、暑さに慣れた多治見の皆さんは元気にハードなスケジュールの視察・研修をこなされました。岩手県大船渡市・陸前高田市、宮城県気仙沼市・南三陸町・

石巻市などいずれも津波の甚大な被害を被った地区の視察や語りべによる体験談はテレビや新聞では決して伝わらない被害の大きさや悲しさを実感するものでした。

また、カゴメ・カルビー・ロート製菓が発起人となり民間企業や個人が震災で親を亡くした高校生の進学を支援する「みちのく未来基金」の事務局末田氏(カゴメ)がバスに同乗し、基金の活動内容の説明をしてもらったり、震災時や直後に実際に被災地で体験された12回生の塚本省二氏、古田定昭氏の貴重な話を聞くなど研修は盛りだくさんながらも一つ一つが違った震災被害の実話で胸に迫るものがありました。

表題にあります「津波てんでんこ」とは、過去に何度も大きな津波に襲われた釜石市地区の人々の昔からの言い伝えで、大きな地震が来たら集団ではなく個人個人が「てんで」にすばやく高台に逃げる、会社・学校でも同じで高台に避難していれば必ずいつか再会できるから・・・というものです。今回の震災でも釜石市の小中学生は99.8%の生存率だったようで、こうした日頃の用心が被災地全体に根付いていればと改めて悔しい思いをしました。

今回の視察研修会を企画実施していただいた本部同窓会の伊藤会長はじめ参加の皆様へ感謝するとともに、参加された在校生によってこの体験が広く多治見北高全体に広がることを祈念します。



石巻市大川小学校で語りべ(遺族)からお話を聞く

## 同窓生だより

### 8 回生 関東在住在勤者の同期会を開催、 2年振りに旧交を温める!

関東在住在勤者の8期生は北高を卒業し47年目を迎え、還暦を5年経過し国民年金も受給可能な年齢を迎え、去る4月18日(土)12時から東京浜松町世界貿易センタービル39階の浜松町東京会館 Bar39において、同期会を開催した。この会場



を利用するのは、前回に続き2回目である。

当日の参加者は、名簿登録者36名の内、小林(旧姓以下同じ、加藤)博子さん、板津(尾関)純子さん、小原久、若尾泰英君、原卓男君、渡辺紳一君、木全裕昭君、土本孝要君、浅野義正君、蒲貞行君、原正志君、小島(石川)富美子さん、樋口英雄君、北岡(平手)良子さんの14名となった。また、当日参加できなかった12名の方々から寄せられた近況報告が紹介された。

当日は、東京会館に勤められる同級生の渡辺君に世話をいただき、前菜からメインディッシュ、デザートまでの美味しい食事をいただきながら、ワインなど各種の飲み物もあり、在校当時の思い出話や近況の情報交換に花が咲いた。

8期生としては、既に65歳を超え新たな生活環境を迎える方も増えていますが、まだまだ現役で活躍をしている同期生も多く居られ、これからも可能な限り毎年1回は同期会を開催してお互いの交流を深めたいと一同で思っています。

8期生の最近の明るい話題は、千葉県亀田総合病院の

## 第25回多北東京総会・懇親会

# 1回生から新卒生まで和気あいあいと

昨年11月15日(土)、第25回東京支部総会・懇親会を女子栄養大学駒込キャンパスにて開催しました。来賓として、本部から伊藤恒一会長、酒井忠造前会長、五島達明副会長、母校から加藤知之校長、後藤浩利先生、関西支部から水野尚之会長、多治見市から古川雅典市長、柚木崎秘書、宮本秘書、恩師の松田嘉久先生、川村政好先生、鈴木安彦先生、東濃会から中島千尋瑞浪高校首都圏同窓会代表らをお迎えしました。

総会では、第24期事業報告及び決算報告、監査報告、第25期事業計画及び予算案について審議・了承されました。

恒例のフォーラムは、「あなたの情報は狙われている! 守る術はあるのか?」と題して、高木浩光氏(25回生・(財)産業技術研究所主任研究員・内閣官房情報セキュリティセンター併任)のお話を長谷川隆氏(25回生・週聞東洋経済前編集長)と若井麻也子さん(25回生)を聞き手にして伺いました。タイムリーなテーマで、皆さんまだまだ聞き足りない感じでした。

懇親会は原田会長の開会の挨拶および乾杯の発声で始まり、来賓の鈴木校長、伊藤同窓会本部新会長、古川多治見市長からご挨拶を頂きました。

参加者は来賓を含め120数名で、楽しく和気藹々とした会になりました。1回生から新卒生まで幅広い年齢層の方々に参加して頂き



ました。殊に46回生から新卒の54回生の若い人たちからも14人の参加があり、会場の各所で世代を超えた交流が見られました。



## 多北東京ゴルフコンペにご参加ください

今年の多北東京ゴルフコンペは4月29日と9月23日の2回の開催となりました。幅広い年代の同窓生が気兼ねなく参加できる気楽なコンペです。今後も引き続き開催していくために、まずはお声かけをするための名簿を充実させたいと思います。初心者、ベテランを問わず一人でも多くの皆さんのエントリーをお待ちしております。

担当幹事：渡辺啓一(12)、鈴木清二(13)までご連絡ください。

メールにてどうぞ：info\_hokushin@tajimikita-tyo.com



4月29日、大相模 CC

## 同窓生だより

ノ副院長を務めている加納宣康君が長年の実績が認められ日本臨床外科学会賞を受賞したこと、京都の立命館大学の教授である吉田美喜夫君が総長に就任したことなどであろうか。

発表されている我々の年代の平均余命のデータによると、だ

いたい女性が23年超、男性が19年超とのことであり、まだまだ先は遠くあり同期生が集い、その時々話題を語り合いたいものです。そのためには、お互い暇と健康が第一です。

(小原久)

## 15回生 卒業40周年で集う

15回生は今年卒業40周年。連絡のつく人だけでも集まろうかと声掛けをしたところ、関東圏から7名、地元から1名、計8名の参加表明がありました。6月21日虎ノ門ヒルズ2F「グリーンラタン」に集合! 還暦を前に、それぞれがそれぞれの人生を顔に認め、さぞかし含蓄に富む会話が弾むことだろうと思いきや、あっという間に高校時代の「乗り」。気持ちだけ若返りました。これからも少しずつ参加者を増やしながら、こうした集まりが続けられると良いです。

(大久保 由美子)



# 第26回東京支部総会・懇親会のご案内

いよいよ秋も深まって参りましたが、会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素から多治見北高同窓会東京支部運営にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

さて、本年は東京支部総会および懇親会を下記の通り開催します。昨年と同じ女子栄養大学駒込キャンパスでの開催ですが、とりわけ懇親会での料理は大学直営レストランのもので、味はもとより栄養バランスにも配慮されており、評判も上々でした。

また、ご家族のご同伴にも配慮をさせていただいております。ご夫妻での参加、あるいはまだ手が離せない小さいお子様をお持ちの方、日頃忙しくてなかなか交友を拡げる場に参加する機会がないという方も、この機会を是非ご利用下さい。ここでの繋がりが仕事や生活を一層充実したものにしてくれるかもしれません。お知り合いの同窓生も誘い合わせの上、ふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

多治見北高同窓会東京支部総会実行委員会（下一桁6の回生）

## 記

日 時：平成27年11月28日（土曜日）午後2時～6時（1時30分開場）

会 場：女子栄養大学 駒込キャンパス 東京都東京都豊島区駒込 3-24-3 JR駒込駅より徒歩3分（約350m）

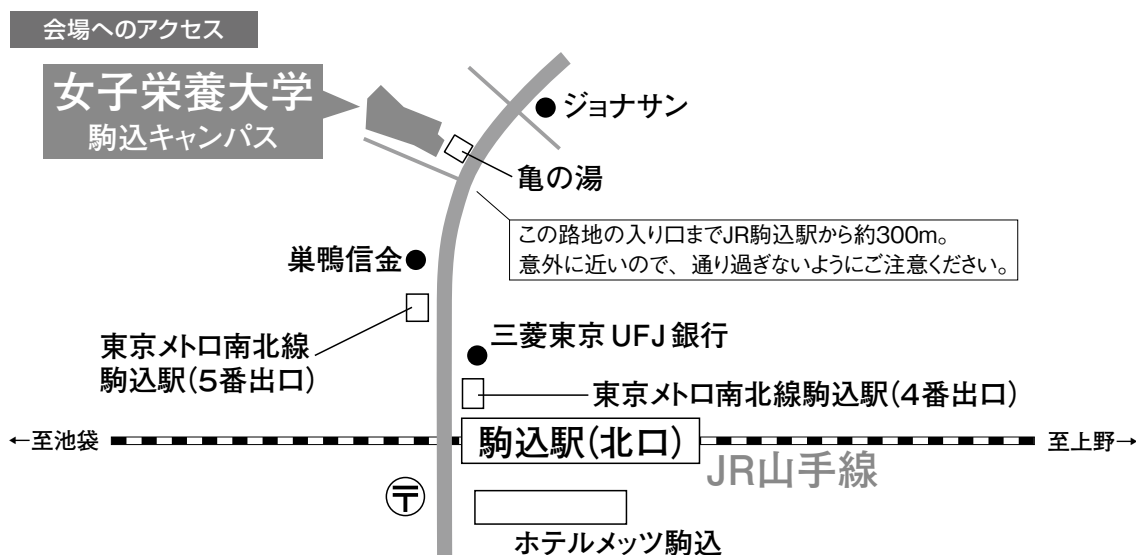
## <プログラム>

- ・総 会：午後2時00分～2時30分
- ・フォーラム：午後2時45分～3時45分 講師 水野健一郎氏（26回生）

### 【アニメから現代アートへ、現代アートからアニメーションへ。】

かつてはサブカルチャーであったアニメは、今では“クールジャパン”のキャッチフレーズの下、日本を代表する文化としてのポジションを確保するに至っています。表現としても拡がり続けるアニメに関し、高校時代、映像研究会で自主アニメを制作し、現在、アーティストとしてアニメ的な技法を用いた表現活動を続ける水野健一郎に、現在開催中の個展をベースに「アニメと現代アート」を語ってまいります。

- ・懇 親 会：午後4時00分～6時00分
- ・懇親会費 一般6,000円、30歳未満3,000円、学生1,000円（新卒業生は無料）  
同伴家族3,000円（但し高校生以下無料）
- ・年会費 一般2,000円 学生0円



訃報：小栗 英夫さん（2回生）が癌との闘病の末2月28日に亡くなりました。小栗さんは副会長を務めるなど、当会のために大変力を尽くされました。謹んでお悔やみを申し上げます。

編集委員 原田英明（12回生）、渡辺啓一（12回生）

<ホームページアドレス> <http://www.tajimikita-tyo.com/> <メールアドレス> [info\\_hokushin@tajimikita-tyo.com](mailto:info_hokushin@tajimikita-tyo.com)